

のしろ児童館だより

小松市北浅井町1号21 TEL・FAX 22-6430 平成23年10月号

教師の熱心 親の熱心

尊敬する師が「教師の熱心 子を殺す」と、いつも教えて下さいました。熱心に教え導いているつもりが実は子どもの気持ちを無視して自分の望む方向に持って行ってしまいがちになることを戒める言葉です。私は「親の熱心も子を殺す」ことがあるのではないかと思います。

親は、いつの間にか子どもが成長し、一人でいろいろ考えて行動できるようになっていることになかなか気がつかないものだと思います。生まれた時は弱々しく、一人では何もできない時からわが子を育ててきているのですから、無理ありません。

それで、子どもが充分育って自分で考えられるようになっているのに、子どもが自分で考えて結論を出す前に、「ああだ。こうだ。ああしなさい。こうしなさい。」と先走って道を示してしまいます。親にしたら親切で、子どもがかわいくて大事だからなのですが、こんな風にいつも子供に接していると、子どもはやがて高学年になると「うるさい！」と親を拒否するようになるか、おとなしい子なら何も考えないで、家庭に波風を立てないように親の言いなりになっていくかどちらかです。

子どもが自分で考えて、行動したことは、大抵大人から見てつまらないことに見え、「ああしたらもっといいのに、こうしたらいいのに・・・」と口を挟みたくなることばかりですが、ここが我慢のしどころではないでしょうか？色々な道具の使い方や、怪我をしない方法などはどうしても先走って教えておかなければいけません、そんなことは子供は素直に聞くものです。しかし、ご飯を食べてから、あのテレビがどうしても見たいから、それを見てから宿題をしようと子どもが考えて計画を立てていたところに、「さっさと宿題をしなさい！またあした困るでしょ！困るのはあなたなんだから、お母さんは知れませんよ！」などと言ってしまうと「うるさいな！」と子供は返し、親がドキッとして、時には子どもが口答えしたことに逆上して、「またそんなこと言って！いつもいつもそうなんだから！」と2人で泥沼に入りこんでしまうこととなります。本当は口答えできるほどに成長したことを喜ばなければいけないのに。

そんな時は、うるさく言うのではなくて、子どもが先を考えていることを前提にして、子供を尊重し「今日のこれからの予定は？」と投げかけてあげれば良いことです。

また、子どもがいつもいつもそのように、親の言いなりになってやっとな腰をあげる子になってしまっているとしたら、子供に考える隙を与えなかった、親のこれまでの関わりかたを問題にしないといけないのではないのでしょうか。

「知れませんよ、困るのはあなたなんだから！」と言いたくなったら、**本当に宿題は子供の問題なのです**から、親がとってしまうのではなく、自分で気付くまで、「今日のこれからの予定は？」と唱えるだけにしてはどうでしょうか。子どもの気付きをじっと辛抱強く待つのがしっかり自分の足で歩いていける子を育てるコツではないのでしょうか？本当にして欲しいことに対しては、言うのではなく、黙って親がお手本を示すことが一番です。